

特集

水生生物にとっての水際域の機能

水際を構成する 「陸上部」と「水中部」の植物

水際域の構造と水生生物の生息量には密接な関係がある。

水際は陸上部の植物(陸上カバー)と水中部の植物(水中カバー)に分けられ、

両者の有無は、水生生物(魚類・甲殻類)の分布に影響することが分かった。

水中カバーがあると、水際の流速が低減し、そして水生生物の隠れ場が提供される。

そのため、水中カバーの消失は水生生物の生息量に強く影響することが確認できた。

Question & Answer

Q

植物で覆われた川岸がコンクリート護岸になると、水生生物はどのように反応するでしょうか？

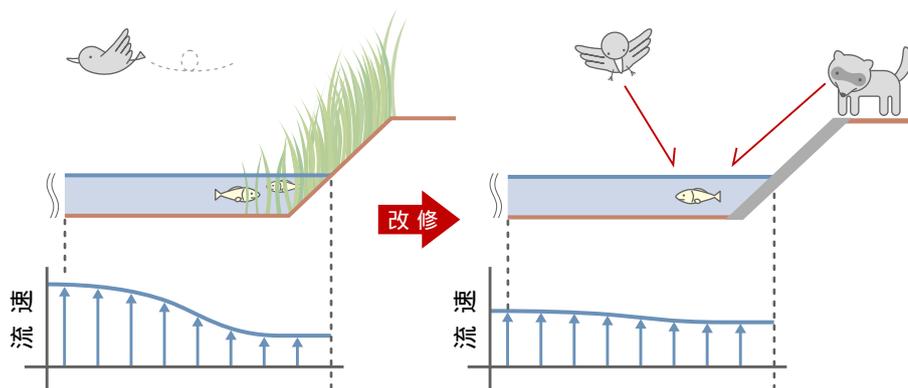


A

多くの魚類や甲殻類はその区間から移動し、水生生物全体の生息量が小さくなります。



自然河岸とコンクリート護岸の特性の違い



水際の流速が緩やかになるため、横断面の流速分布が多様になる

護岸付近の流速が小さくならないため、全体的に変化が少ない流速分布になる

	自然河岸	コンクリート護岸
水際部の流速	緩やか	速い
横断面の流速分布	多様	単調
捕食圧	低い	高い
日陰効果	有	無
捕食者からの避難場	有	無
法面から川への餌供給	多い	少ない